



三事研広報

No.4

H27.1.20 発行

三重県公立小中学校事務研究会

発行者 林 知世
編集責任者 仲野 真未

子どもたちが冬休み前より少しふっくらして登校してきたのを見ると、充実したお正月を過ごしたんだろうなあと、なんだか幸せな気分になりますね。

めっきり冷え込む日が続いております。皆様もお風邪など召されないよう、お気をつけください。

第51回三重県公立小中学校事務研究大会

10月16日(木)さわやかな秋晴れのもと、三重県総合文化センターにおいて「教育活動の活性化に向けた学校事務の実現」をテーマに、第51回三重県公立小中学校事務研究大会が行われました。ご参加いただいた会員の皆様、ありがとうございました。



講演

●演題 「博物館ができるまで そしてこれから博物館がめざしていくこと」

●講師 三重県総合博物館 館長 布谷 知夫さん

「博物館とは普段何をしているところなのだろう?」「どのようにして博物館『MieMu』ができたのだろう?」といった私たちの疑問や、博物館のこれからの目標について、お話しいただきました。三重県の人に、「自分達の博物館」と思ってもらえるように、地域全体で作上げる長い準備期間をもったこと、たくさんの方の手で完成させたことについてお話しいただきました。

布谷さん達が博物館を作り上げていったように、私たち事務職員も学校を「自分達の学校」と思ってもらえるように、地域と協力をして、よりよい教育環境を作り上げていきたいと思いました。



●研究テーマ 「あなたの思う危機管理、私の思う危機管理」
…事務職員の立場に立つて…

-他の地域の危機管理を知ってみたいと思いませんか-

●担当支部 三四支部

午後の支部発表は、三四支部の危機管理について、〈保護者対応〉〈防犯対策・校内安全対策〉〈児童生徒飛び出し対応〉〈防災対策〉の4つをテーマに発表していただきました。事務職員の立場・視点からの提案、防犯グッズの紹介や装着など、具体的な事例をとおした実践発表が行われ、危機管理について楽しく考えることができました。

わたしたちの学校・地域・共同実施に置き換え、取り組みを振り返る有意義な時間となりました。

わたしたちは「学校事務職員として何ができるか」、「事務職員という立場だからこそ」、「危機管理意識の向上と危機管理体制の中の一人としての自覚と責任が必要である」という言葉が印象に残りました。

普段の仕事の中で「防災の視点」を忘れず、行政職員である学校事務職員の強みや立場を生かした提案や方法で、教職員とともに児童、生徒、住民の安全安心に貢献していけるよう進んでいきたいと思いました。



亀山支部紹介

亀山支部は14校15人の1グループで構成されています。亀山中学校敷地内にある亀山市学校事務センターは、週1回の全員日と残り4回は当番制で毎日稼働しています。

森や川といった豊かな自然にあふれる亀山には、小規模特認校制度が実施されている白川小学校があります。木造平屋建ての校舎は国登録有形文化財に登録されています。鉄筋校舎にはない暖かい雰囲気や緑に囲まれての学校生活は魅力的です。他にも三重県に現存する唯一の城郭建造物である多門櫓や古い町並みが残る関宿など歴史に触れられる亀山へぜひ、お越しください。

